

上三潞地域の農業構造

内田 昭修

(福岡県農業試験場)

UCHIDA, A.

Conditions of Farming in Kamimizuma Area, Fukuoka Pref.

はじめに

筑後平野は九州における肥沃な水田農業を代表する地域であるが、特に南部クリーク地域は生産力の高いことで知られている。この地域はおもに旧三潞郡によつて占められる地域であるので、我々は一般にこの地域の農業を三潞農業と呼んでいる。しかし三潞郡は町村合併推進によつて南部一帯は大川市や柳川市に統合され、現在は筑邦町、三潞町、城島町および大木町の4町からなっている。

現三潞郡のうちクリークが存在する南半分、すなわち城島町と大木町の下三潞地域と、クリークが存在しない北半分、すなわち筑邦町と三潞町の上三潞地域と

では経営条件に大きな違いがみられる。

上三潞地域の農業が下三潞地域の農業に対比して現在どのような経営条件を持ち、今後どのような発展方向を持つべきかを検討するために、このたび三潞町田川東部落*の全農家94戸の経営実態調査を行った。

調査結果

調査個票を素材として経営耕地面積と経営経済諸指標間の相関性、ほぼ同一耕地を経営しながら所得差を生じている諸要因、および営農類型別農業構造の比較など、将来この地域の農家が自立経営に向うために必要な諸条件についての分析を行ったが、紙面が許されないでここにはその一つを記述する。

耕地面積が80~130aの農家間における10a当り農業所得差の諸要因

農家グループ	項目	農業番号	10a当り農業所得	経営耕地面積	家族労働力	10a当り農業粗収入	10a当り農業経営費	粗収入 経営費 ×100	水稲生産の分析			用蓄 による 所得	わら加工 による 所得	主要 農機 具額	農業 用日 数
									10a当り収量	10a当り所得	経営費粗収入 ×100				
			千円	a	人	千円	千円		kg	千円	%	千円	千円	千円	日
(A) 10業較農ブ a所の家 当得にグ りが高ル 農比い	32	34.3	122	2	44.2	9.9	446	486	26.7	17.3	0	65	7.9	15	8
	36	46.9	114	2	63.0	16.1	392	516	28.9	15.5	39	125	43.7	8	8
	38	37.3	106	2	45.5	8.2	554	468	26.8	10.7	0	65	22.7	0	0
	43	37.4	97	2	61.9	24.4	253	480	25.6	16.9	75	0	39.9	0	0
	44	43.4	92	2	77.8	34.5	226	480	29.6	7.5	120	0	36.0	3	3
	49	34.6	80	3	42.6	8.0	533	480	26.7	16.6	0	15	11.2	0	0
	平均	39.0	102	2.2	55.8	16.9	401	482	27.4	14.1	39	45	26.9	4.3	4.3
(B) 10業較農ブ a所の家 当得にグ りが低ル 農比い	30	26.0	124	2	31.1	5.1	613	420	23.4	16.1	0	0	8.2	0	0
	31	25.0	123	2	32.9	7.9	418	420	22.2	20.7	0	0	33.7	30	30
	33	22.1	121	1	33.7	11.7	289	456	21.1	30.8	0	0	18.3	74	74
	39	22.8	102	2	31.9	9.0	354	414	20.4	26.1	0	1	7.0	20	20
	40	23.1	102	2	29.7	6.6	453	360	19.9	17.4	0	17	5.0	0	0
	41	22.0	100	2	35.1	13.1	268	480	22.1	30.9	0	27	16.8	10	10
	46	25.7	89	2	32.2	6.4	501	420	23.7	15.4	0	17	11.6	0	0
	47	21.8	89	1	26.9	5.1	532	360	20.2	15.1	0	0	6.0	0	0
	平均	23.6	106	1.8	31.7	8.1	429	416	21.6	21.6	0	8	13.3	16.8	16.8
A平均-B平均			+15.4	-4	+0.4	+24.1	+8.8	-28	+66	+5.8	-7.5	+39	+37	+13.6	-12.5

上表は耕地面積が100a前後(80~130a)の農家24戸のうち、比較的10a当り農業所得が高い農家6戸と、比較的低い農家8戸をとり出して、両グループ間の経営条件の違いや所得差を生じる諸要因を究明したものである。これによるとA平均はB平均よりも10a当り農業所得が15,400円高く、粗収入では24,100円高くなっている。粗収入や所得が高い理由は水稲の

10a当り収量が高いこと、用蓄やわら加工の収入が高いことなどによるが、粗収入/経営費×100では逆に低くなっている。しかし主な農機具の年償却額で機械利用の程度をみるとAはBの2倍の高さであり、雇用労力は少なくなっている。

* 昭和36年度から「大型機械化作実験農場」が設置された部落。